

平成7年(1995年)11月22日
第85回『21世紀塾』参考資料
(第3回提言)

組曲『箱根』作曲依頼について

『21世紀塾』代表世話人 小野 徹

【問題提起】

本年は、昭和60年に当代有数の識者のご賛同を得て、(社)三島青年会議所が、(社)小田原青年会議所の協力を得て行った「箱根8里記念碑」の設置、「オープン・ロード箱根8里ガイドブック」の発行から、10周年を迎えています。

この間、箱根西麓の旧街道の整備も着々と進み、遠方よりの本格的なハイカーや、親子連れのハイカーも年々増加していることは喜びに耐えません。

さて、西暦2001年には、東海道制定400周年という記念すべき年を迎えます。

これに対し、建設省は「東海道ルネッサンス」、静岡県は「夢ステージ・東海道」をテーマに、この年に向かって、旧街道整備といったハード面の整備と、記念事業としての様々なイベントを企画しているようです。

しかし、東海道の要衝として、日本全国に発信でき、後世にも語り継げる、又、三島や箱根、小田原といった箱根8里を郷土とする者の「誇り」となるような企画は、まだ見つかっていないのが実情かと思われまます。

そこで、我々は、10年来「箱根は重要な財産だ」として様々な事業・活動を行い、又、「東海道沿線青年会議所連盟」を提唱し、事務局運営にも携わってきた(社)三島青年会議所が中心となって、この「誇り」を創造する企画を提唱すべきであろうと考えるものです。

特に、これからの時代は、さらに近代化された機械や、コンピューターに囲まれた世界になることが予想され、2001年が21世紀の初頭であることも考え合わせれば、ヒューマニティー、人間性溢れる企画こそが待ち望まれるのではないのでしょうか。

四季折々の大自然に溶け込みながら、過去の様々な歴史を偲び、その地の文化に触れながら歩く――こうした人間性回帰の基本的な行動に、何らかの付加価値を付けることが、企画としては最も自然な考え方だろうと思われまます。

我が「箱根」にもそれが求められるとすれば、歩きながらでも、一息ついた時にで

も、思わず口ずさんでできるような歌こそが、この企画に最もふさわしいのではないのでしょうか。

又、この壮大な企画には、壮大であるが故に、日本一の指揮者、小沢征爾氏にプロデュースをお願いすべきだと考えます。

幸い、小沢征爾氏は、箱根8里記念碑の設置に際し、「貴方は今歌ってますか」を揮毫していただくなど、当時から箱根に関しては深いご理解をいただいている方であり、箱根に対する思い入れも人一倍であろうかと推察されます。

本当の素人考えですが、例えば下記のような企画はどうでしょうか。

概略案

総合企画	小沢征爾氏
曲名	組曲『箱根』（序奏～終曲まで8曲）
作曲	箱根8里にちなんだ8人の作曲家

東と西、江戸と京・大阪を隔てる箱根は、厳しい山越えとともに、春夏秋冬、又、1日の中でもその様相を変える気象条件とあいまって、古くから「天下の険」と称され、東西文化の交流の道、幾多の歴史の舞台となって来ました。

と同時に、この箱根から遠望する、富士山、駿河湾、相模灘の絶景は、行き来する旅人たちの喜びであり、慰めでもありました。

明治34年、くしくも西暦1901年、我々の意図する年次の丁度100年前、滝廉太郎は『箱根山』を発表し、この曲は今でも全国民の愛唱歌として親しまれております。

現代に生きる我々が、21世紀を間近にした我々が、これに勝る、本格的な組曲を世に送り出せればと、夢見る次第です。

(注) この文章は、1995年度(社)三島青年会議所、箱根西麓ビジョン委員長の藤沼康博君に口頭で進言させていただいたものを、小沢征爾氏の箱根8里記念碑揮毫の橋渡しをしていただいた平田義一氏を始め、多くの皆様のアドバイスを得て作成したものです。